

歯つらつ

2015年12月
237号

発行所
齋藤歯科診療所
由利本荘市美倉町 47-1
TEL ヨイハニ
0120-24-4182
www.saitoshika.net

～診療時間～
曜日：月曜～土曜
時間：午前 9:00～1:00
：午後 2:00～6:00
～休診日～
日曜・祝日
第2・4木曜日



勤労感謝で園児来院

11月20日、勤労感謝の日を前に、今年もひかり保育園の園児たちが来院してくれました。

当日は気温も低く、風が冷たい日でしたが、元気な声で「いつもお仕事ご苦労さまです。お仕事頑張ってください」と声援をもらいました。

また、鮮やかに咲いたシクラメンと手作りのカレンダーも頂きました。毎年頂いている手作りの作品は他にもたくさんあり、



ひかり保育園の園児の皆さん、ありがとうございます。



出入り口の棚などに展示しております。是非ご覧になって下さい。

休診のお知らせ

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------|-----|----|---------|-------|-----------|------|
| | 12月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 休診 |
| 6 休診 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 休診 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 休診 | 21 | 22 | 23 休診 | 24 休診 | 25 | 26 |
| 27 休診 | 28 | 29 | 30 午後休診 | 31 休診 | ～1月4日まで休診 | |

◎年末年始の休診

12月30日(水)午後、

1月4日(月)まで

来年は1月5日(火)より診療致します。ご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願致します。今年も大変お世話になりました。良い年末年始をお過ごし下さい。また、来年も皆様にとつて良い年でありますように。

11月21日、22日の二日間、日本口腔インプラント学会の東北・北海道支部学術大会が仙台で開催され、参加してまいりました。今回で35回目となる学会のテーマは「インプラント治療の原点に返って」というものでした。

インプラント治療とは、むし歯や歯周病などが原因で抜歯となってしまう部位の顎の骨に人工の歯根（現在チタン合金製が主流です）を埋め込み、数か月してそれが骨と結合したのちに人工の歯を装着して、咬みあわせや審美性を回復させる治療です。

学会の講演のうち、基礎研究の分野では解剖学に関わるものが主に取り上げられておりました。

日本口腔インプラント学会に参加して

インプラント治療を行う顎の骨は、上下とも神経や血管が多数存在しております。そういった解剖の知識や診査が不十分なままインプラント体を埋入して神経や血管を傷つけてしまい、麻痺や出血といった事故を起こす例が以前から報告されております。

よってインプラント治療を行うための解剖について十分勉強しなくてはならない。さらに、解剖は患者さん個人個人で個性があり、教科書の知識だけでは補いきれないので、CTを撮影して精査して治療を行うのが望ましいという演者の先生のお話しでした。

また、生化学的な分野の発表もありました。

インプラントが必要な部位



は、往々にして骨が大きく吸収してしまっていることがあります。そのような場合、人工骨といった材料で補わなくてはなりません。

そこで、より早く骨化してインプラント体の表面と結合してくれる人工骨を開発・実用化することで、治療期間が短縮でき、患者さんのメリットになるということでした。

実際の治療を行う臨床分野についての発表では、インプラント周囲炎についてのものがありました。

インプラント体は、天然の歯のように強固に歯周組織に支持されていないため、歯周

病に対しての抵抗力が劣ります。

インプラントの歯周病とでもいべきインプラント周囲炎に罹患してしまうと、たちまち周囲の骨の破壊・吸収をきたしてしまう恐れがあります。

講演ではその対処と、そしてそもそのリスクを低減させるため、歯周病の治療をあらかじめきちんと行い、定期的な検診をこなすはならないことでした。

技術や知識がどれほど進歩しても、やはり基本的になさなければならぬことは変わらないということ、それを踏まえて今後も研鑽を積みたかと思つた二日間でした。

院長

歯科の訪問診療

最近、当院では車椅子で来院される患者様が増えてきました。身体の不自由な方も杖や歩行器を使い、介護タクシーや施設の手、家族による送迎で来院するようにになりました。

このように高齢化社会をむかえ、自力で来院することが出来ない方が増えています。

高齢者に多い症状として、義歯の不具合、痛み、腫れ、口内炎、服用している薬による口内乾燥症などが多いです。

口腔内の不具合は食欲低下につながりやすく、体力が落ちやすいです。

また口腔内の清掃状態の悪化は、誤嚥性肺炎の原因にもなります。

誤嚥を回避するあまり、安易

に流動食にするのではなく、咀嚼出来るよう口腔機能を回復させ、口から食物を取ることが大切です。

口から食事を取ること、前より顔色が良くなったたり体力の回復が見込まれます。口腔機能低下には、早期発見と治療が必要で

外来受診が困難になった時は、訪問歯科診療で対応することが

できます。主治医、歯科医師、介護職員など身近の担当者、もしくは市町村保健センター等に問い合わせると訪問診療を受けることができます。

当院でも患者様のかかりつ



け病院、施設、自宅に訪問診療を受け付けており、必要な器具・機材も揃えております。ただし訪問できる範囲は、保険治療では当院から半径16km以内と定められていますので、予めご相談下さい。

最新まで口から食べるための口腔機能を維持し、患者様の生きる力を支援していきたいと思います。

池田